

2010年1月28日

株式会社 富士キメラ総研
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
 2-5 F・Kビル
 TEL.03-3664-5839 FAX.03-3661-1414
 URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
 URL: <http://www.fcr.co.jp/>
 広報部 03-3664-5697

モバイル通信の進化で新サービスの広がりを予感させる

日本のブロードバンドビジネス市場を調査

2008年度市場と2014年度予測

コンテンツサービス 08年度 8,525億円 14年度予測 1兆1,717億円(08年度比37.4%増)
 コミュニケーション 08年度 568億円 14年度予測 1,275億円(08年度比124.5%増)

マーケティング&コンサルティングの(株)富士キメラ総研(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 田中 一志 03-3664-5839)は、昨年9月から12月にかけて08年末で契約数3,000万件を超えたブロードバンド接続サービス市場を調査した。その結果を報告書「2010 ブロードバンドビジネス市場調査総覧」にまとめた。*ブロードバンド接続サービス=FTTH、ADSL、CATVインターネット *モバイルサービス=携帯電話、PHS

この調査では、ブロードバンドサービスを「コンテンツサービス」「EC」「コミュニケーションサービス」「広告」「情報配信サービス」「金融サービス」「その他」の6分野に分けて、固定/モバイルブロードバンド上で提供されている各サービスと、事業者向けサービスを含めた関連サービスについて分析を行い関連事業戦略のためのマーケティングデータを提供する。

1. 注目されるサービス

映像配信サービス(有料・モバイル向け)

09年度見込 75億円(08年度比36.4%) 14年度予測 240億円(08年度比5倍)

モバイル端末(携帯電話/PHS)向けに動画を配信するサービスで、09年5月、エイベックス通信放送のNTTドコモ向け「BeeTV」が配信開始1ヶ月でダウンロード1,000万件突破を達成、KDDI「LISMO Video」、ソフトバンクモバイル「S-1バトル」など携帯電話キャリアのサービス提供も活発化した。

エイベックス通信放送「BeeTV」が配信する映像コンテンツは、独自の制作コンテンツを配信しており、今後はコンテンツのDVD化など新たな展開も登場する。ワンセグ搭載の携帯電話が増加し、携帯電話での映像視聴習慣が定着すると、ユーザーは好みのコンテンツを求めて映像配信サービスを利用することも考えられ更に市場拡大が期待できる。この分野は有料サービスが先行しており、無料サービスのISA「MOVIEFULL」やフロントメディア「QTV」などは景気悪化により現段階では縮小傾向にある。

電子書籍

09年度見込 529億円(08年度比123.0%) 14年度予測 875億円(08年度比203.0%)

書籍をデジタルデータ化して、インターネットやモバイル通信でPCやモバイル端末に配信するサービスで主なコンテンツは、小説、コミック、写真集となっている。モバイル向けサービスは通信速度の高速化、パケット定額制サービスの普及で、コミックコンテンツを中心に需要を伸ばしている。08年時点では主ユーザーは10代~20代であり、モバイル向けが80%以上を占めて市場を牽引している。

世界的に電子書籍端末に注目が集まっている。現在の主要ベンダは米Amazon.comとソニーであり、09年10月にはAmazon.comが世界100ヶ国以上で電子書籍リーダー「Kindle」の提供を開始した。現在国内でダウンロード・閲覧可能なコンテンツは英語書籍だけで日本語未対応となっているが、通信料を意識せず3Gネットワーク経由で電子書籍をダウンロードするビジネスに注目が集まっている。中長期的には専用端末市場が生まれる可能性もあり、コンテンツの拡充などにより成長が予測される。

SNS(Social Networking Service)

09年度見込 600億円(08年度比125.0%) 14年度予測 820億円(08年度比136.7%)

SNSとは、新たな人間関係の構築・サポートを目的とするWebサイト。

市場はミクシィ、ディー・エヌ・エー、グリーの3社でシェアの大半を占めている。広告収入は、市場競争の激化と

景気悪化により純広告の単価が下落し、一部の業界で出稿を控える傾向も見受けられた。しかし消費財の出稿が比較的伸び、タイアップ広告、ターゲティング広告など費用対効果が期待できる広告に対する需要が高まって広告収入が拡大した。課金収入も、ゲームコンテンツのコンテンツ数と人気ゲームの増加によって大きく増加した。

09年度も、グリーの影響を受けて高成長を続けると見られ大手3社のビジネス基盤が確立して市場は成熟期に向かう。当面はゲームコンテンツと連携して課金収入、広告収入ともに拡大が期待される。10年度以降は各社のユーザー拡大方針から利用機会の促進や、SNS以外のサービスを内製あるいは協業によって提供し、市場が拡大していくと見られる。

2. 調査結果の概要

	09年度見込み	08年度比	14年度予測	08年度比
コンテンツサービス	9,362億円	109.8%	1兆1,717億円	137.4%
EC(ショッピング、オークション)	3兆7,705億円	107.9%	5兆1,450億円	147.3%
コミュニケーション	737億円	129.8%	1,275億円	224.5%
広告	6,770億円	111.6%	9,440億円	155.7%
情報配信サービス	540億円	112.5%	720億円	150.0%
金融サービス	4兆5,840億円	113.3%	5兆7,940億円	143.2%
その他(IP電話、eラーニング他)	3,919億円	116.6%	5,600億円	166.6%

コンテンツの流通市場は、放送やDVDなどパッケージメディアとブロードバンド配信を合わせて7兆円台で微減推移している。その中でブロードバンド配信サービスが08年度時点で10%を占めるまでに成長しており13年には15%を超えると予測する。

固定ブロードバンド接続サービスの契約数は08年度末に3,000万件を突破しており、FTTHサービス、ADSLサービス、CATVインターネットサービスを中心に成長してきたが今後はFTTHサービスを中心に更に普及していく見通しである。

モバイル向けサービスは、電気通信事業者協会の発表によれば09年11月末時点で携帯電話サービス契約が1億1,017万件に達している。さらにデータ通信では3.5世代機が普及しており、速度面では固定ブロードバンドと遜色ない通信環境が実現している。またインターネット接続環境の高機能化に伴い、端末も進化し続けている。スマートフォンの利用が一般ユーザーを含めて本格的に広がり、電子書籍端末やデジタルフォトフレームなどインターネット接続機能を搭載した新端末も普及し始めている。

ブロードバンドサービス需要は更に拡大してはいるものの08年後半以降の景気悪化でその環境は厳しさを増している。特にインターネット広告で影響が大きく、各社とも広告収入が伸び悩んでいる。その一方で、スマートフォン普及に伴う「AppStore」や「Android Market」などのアプリストアでのビジネス展開や、「Twitter」に代表されるミニブログの台頭など、次々に新たなサービスやビジネスモデルが登場しており変化の激しい市場は関連事業者の注目を集めている。

3. 主要サービス分野別需要動向

1) コンテンツサービス(映像配信、音楽配信、動画共有サービス、オンラインゲーム、電子書籍)

09年度見込9,362億円(08年度比9.8%増) 14年度予測1兆1,717億円(08年度比37.4%増)

コンテンツサービスは、ブロードバンドの普及やワイヤレスインフラの高速化と共に拡充し、高機能端末が普及しており、更に拡大が期待される。スマートフォン向けコンテンツへの取り組みが進み、モバイル向けサービスの成長が14年度には08年度に比べ50%増、4,509億円に成長して市場を牽引すると予測する。

TV向けサービスはIPTVやオンラインゲームサービスが充実して、TVをインターネット接続するユーザーが増加し更に利用拡大が見込まれる。

モバイル向けサービスは、「着うたフル」や電子書籍、映像配信などにシフトが進み、対応端末の高仕様化が進んでいることから需要が更に高まると見られる。

映像配信サービスはTV向けを中心に08年度に4,113億円の市場を形成しており、更にIPTVサービスの需要拡大と動画対応端末の普及によるモバイル向けサービス拡大が見込まれる。オンラインゲームはモバイル向け及びPC向けを中心に2,160億円市場(08年度)を形成している。モバイル向け市場はSNS(社会的ネットワークサービス)などで提供される無料ゲームに需要が移って成長が鈍化している。一方でTV向けは「Wi i」や「PS3」の普及に合わせて需要が高まっている。

2) EC(ショッピング、オークション)

本件に関するお問合せ: 広報部 (Tel. 03-3664-5697 Fax. 03-3664-5842またはmail address: koho@fk-m.co.jp)

09年度見込3兆7,705億円(08年度比7.9%増) 14年度予測5兆1,450億円(08年度比47.3%増)

ECサービスは場所・時間を問わず商品の購入が可能で利便性が受け高成長を続けている。様々な事業者が取り組み、商材の拡充がショッピング市場拡大にもつながっている。競争激化に加え、景気悪化によるデフレからサイト間の優劣が明確になりつつある。またオークション市場は犯罪被害の増加に伴うユーザー離れの影響から市場成長は鈍化しており、09年度は取扱高が減少に転じる見通しである。他のブロードバンドサービスと同様、PC中心の利用から、モバイルからの利用が増加している。各事業者は従来のPCサイトと連動したモバイルサイト取り組みを積極的に進めている。モバイルサイトは、若年層を中心としたモバイルインターネットのヘビーユーザーによる利用や日用品を始めとする身近で予め購入する商品が決まっている商材での利用が中心となる。

3) コミュニケーション(ブログ、SNS、仮想世界サービス)

09年度見込737億円(08年比29.8%増) 14年度予測1,275億円(08年度比124.5%増)

コミュニケーションサービスは閲覧数(PV)を指標とした広告によるビジネス展開を進め急成長して来たが、景気悪化により出稿を控えるクライアントの増加に加えて、価格競争が激化している。各社は新たに課金モデルビジネスを展開しており、ゲームコンテンツやコンテンツと連携したアイテム/アバター販売などにより新たな収入源を確立しつつある。

ブログは、既存マスメディアからインターネット広告への乗り換え需要が拡大し成長を続けている。SNSは、景気悪化で広告収入の成長は鈍化したものの、ゲームコンテンツの利用が拡大して有料課金収入が増加している。今後はPV増加に伴い、媒体価値が高まり広告収入も更に増加すると見込まれる。

仮想世界サービスは2Dサービスを中心に認知が高まり市場が拡大している。今後はSNSサービスからの乗り換えや併用も含め新規ユーザーの獲得が期待され、顧客を抱えているサービスと連携した活性化が考えられる。

4) 広告(インターネット広告、アフィリエイト・サービス)

09年度見込6,770億円(08年度比11.6%増) 14年度予測9,440億円(08年度比55.7%増)

インターネット広告は新メディアとして注目されネット利用者の増加とともに需要が高まった。08年以降の景気後退の影響により、07年以前に比べて成長速度は大きく鈍化している。特に影響を受けたのはPC向けウェブ広告で、大手ポータルサイトや、SNSサイトなど一部サイトを除いて広告売上が減少している。一方、アフィリエイト・サービスは08年以降高い成長が続いている。クライアントがより効果の高いプロモーションに集中しており、成果に応じて報酬を支払うアフィリエイト・サービスに対するニーズが高まって利用業種も拡大している。今後も既存マスメディアからインターネットを活用したプロモーションへ予算シフトすると見込まれ、成長が続くと予測する。Webと他のメディアを複合的に活用するクロスメディアによるプロモーション展開を提案することが需要開拓に必要となる。

以上

<調査対象>

1. ブロードバンドサービス 29サービス 1) コンテンツサービス(11) 2) 情報配信サービス(2) 3) EC(2) 4) コミュニケーション(3) 5) 金融サービス(3) 6) 広告(2) 7) その他(6)
2. 関連サービス 6サービス 3. 企業事例 8社

<調査期間> 2009年9月~12月

<調査方法> 富士キメラ総研専門調査員による調査対象・関連企業・団体に対する直接面接取材及び社内保有データベース、ならびに外部関連情報の活用による調査・分析

資料タイトル:「2010 ブロードバンドビジネス市場調査総覧」

体 裁 : A4判 266頁

価 格 : 97,000円(税込み101,850円)

CD-ROM付価格 : 107,000円(税込み112,350円)

調査・編集 : 株式会社 富士キメラ総研 研究開発本部 第二研究開発部門

TEL:03-3664-5818 FAX:03-3661-5275

発 行 所 : 株式会社 富士キメラ総研

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5839(代) FAX 03-3661-1414 e-mail:info@fcr.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。

URL:<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> URL:<http://www.fcr.co.jp/>